

2 学年の実践記録

(1) 主題に迫るための具体的な手立て

[手立て1]

- ・ 第1学年の時に遊んだ大蔵川や勝田公園に行ったことや、第2学年の1学期の「まちにでかけよう」などを振り返り、川や公園などのお気に入りの場所をあげ、地図にまとめていく。
- ・ 「もう一度〇〇へ行ってみたい。」「今度は行ったことのない〇〇へ行ってみたい。」という意欲を喚起する中で、自分たちの大蔵のまちに目を向けさせるようにし、大蔵のまち探検への意欲付けを図る。
- ・ まち探検では、主に建物や場所に目を向けている児童の意識を、「まち」や「人」へと広げ、「大蔵には他にもこんな場所があるんだ。他にも知っている人がいるんだ。他の場所にも行って、いろいろな人に会ってみたい。」という思いにつながっていくようにする。

[手立て2]

- ・ それぞれの段階の「伝え合い発信する」活動においては、国語科や図画工作科との関連を図り、様々な形態（人数や場、伝え合う方法）で行い、一人一人やグループに応じた支援を行うことで、気付きの高まりや深まりを図っていくようにする。
- ・ 探検で気付いたことを地域の方と手紙・新聞・ポスターなどで伝え合う活動を繰り返して行い、互いのことを理解し合い、心を通わせ、かかわることのよさや楽しさを実感できるようにする。

[手立て3]

- ・ 繰り返しの探検を通して、大蔵のまちの人々や自然、場所に関心をもってかかわり、大蔵のまちのお気に入りの進んで見つけようとするができるようにする。
- ・ 探検後に「お話タイム」を繰り返し行い自分の思いや気付きを伝えることで、気付きを確かなものにする。そして友達の思いや気付きを聞くことで、気付いていなかったことに気付いたり、新たな発見をしたりして、自分の見方・考え方を広げていくことができるようにする。
- ・ まとめの段階では、お世話になったまちの人へお礼の方法を考えることを通して、まちの人に感謝の気持ちや親しみをもつことができるようにする。そして地域で生活したり働いたりしている人々と実際にかかわることを通して、大蔵のまちの人たちが自分たちの生活にかかわっていることに気付くことができるようにする。

(2) 研究の実際と考察

[手立て1]

1年生のときに通学路探検をしたり大蔵川や勝田公園で遊んだりした、大蔵のまちでの楽しい活動を振り返り、お気に入りのところを出し合いながら校区地図に貼っていく活動を設定した。その際、その場所や好きな人にまつわるお話をみんなの前で紹介し合い、校区地図に貼っていった。この活動により、友達のお気に入りの場所や人が自分と同じであったり、逆に知らない場所や人のことを新たに知ったりした子どもがいた。そして、大蔵のまちの様々なところに「すてきな場所や人」がまだたくさんあることを、共通理解することができた。(資料1)

資料①



資料②



そこで、全員で大蔵のまちをもっと知るために探検したいという思いを引き出し、探検への意欲をもたせるようにした。第1回目の全員での探検では、自然や人に目を向けるよう学習計画を立てた。児童の意識をまちや人へ広げるために、探検の途中で人との出会いを意図的に仕組んだ。その結果、探検後に書いたワークシートから、「大蔵のまちにはお醤油をつくっている宇佐美さんという人がいることを知りました。お醤油のにおいがしました。」など、人とのかかわりに関する内容を書いている子どもがいた。

資料③



さらに、地域にある公共施設「大蔵市民センター」にも探検へ行った。これは単元『みんなで行こうよ つかおうよ』の学習で、施設を見学したり、そこで働いている人々と触れ合ったりして、公共施設や公共物はみんなで使うものであることや、それを支えている人がいることが分かることをねらいの1つとしている。この学習を通して、自分の生活は「人」との関わりが深いことを実感させるようにした。(資料③)

このように、人と関わることや大蔵のまちについて知ることの大切さや楽しさなどをもたせた上で、次のグループでの探検へとつなげていった。

〔手立て2〕

2・3回目の町探検では、目的地別にグループ編成を行い探検に出かけた。探検への意欲や目的意識をもたせるために、探検の際に持っていく物として名刺を作り、質問内容を考えたり挨拶の練習をしたりと探検の準備を積極的に行った。児童の思いを基に探検場所を決めた結果、27名が9～10か所に分かれて探検させてもらった(右表参照)。

2回目の探検後、町探検で見つけた「大蔵のまちの『すてき』発表会」を開き、友達と交流し合う場を設定した。

準備として、伝えたい内容と、伝えるときにより効果的にするための資料作りを行った。

まず「話し手」は伝える内容を考えるときに、1学期の国語科の単元「かんさつ名人になろう」での『経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。』を生かして書かせるようにした。書くときには相手に自分の伝えたいことがしっかりと伝わるように、ただの言葉の羅列になることなく『すてき』と思ったことを、五感を使った言葉でも表現させるようにした。

資料は教師が撮った記録写真を使っ切り貼りしたり、吹き出しや自分の感想を簡単に書き入れたり、国語科や図画工作科で学んだカードの作り方を参考にしたりするなどして作り上げていた。資料作りの時間は予め2～3単位(2～3時間)と決めて、資料作りが主にならないようにした。

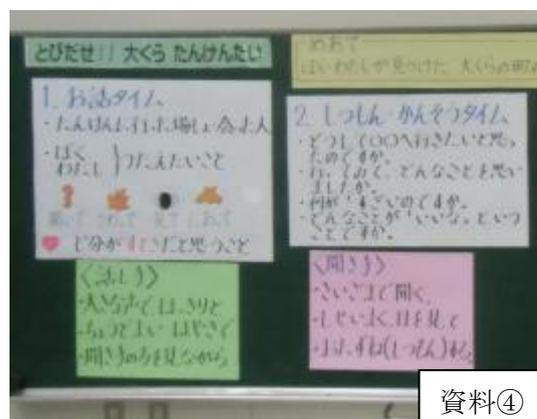
次に、「聞き手」には聞く視点として「どんなことが『いいな』ということですか。」等、聞くポイントを事前に押さえた。さらに発表内容だけでなく、音声言語についても「話し手」「聞き手」の双方共にアドバイスをした。

手立てとして、発表会の流れやポイントが分かるように準備の段階から掲示をしておいた。(資料④)

「大蔵のまちの『すてき』発表会」では、違う場所に探検へ行った2人で編成し「伝え合い」をさせた。一人7分として、終わったら交代をすとした。「めあて」を確認し、「自分が見つけた大蔵のまちの『すてき』がしっかりと伝わるようにはっぴょうすること」と、聞き手は後で『質問・感想タイム』があるので聞きながら、気になったりしたことや自分が行った場所と比べたりしながら聞くこと」等を確認して始めた。(資料⑤)

【2・3回目の探検場所】

- ・梶栗鮮魚店
- ・大蔵保育園
- ・柳田商店
- ・ミニストップ(2回目のみ)
- ・やはたくろがね醤油(宇佐美さん)
- ・乳山神社
- ・乳山幼稚園
- ・杉の実保育園
- ・サンキュードラッグ
- ・片岡フルーツ



資料④

資料⑤



〈片岡フルーツへ探検に行った子どもの発表内容(一部)〉

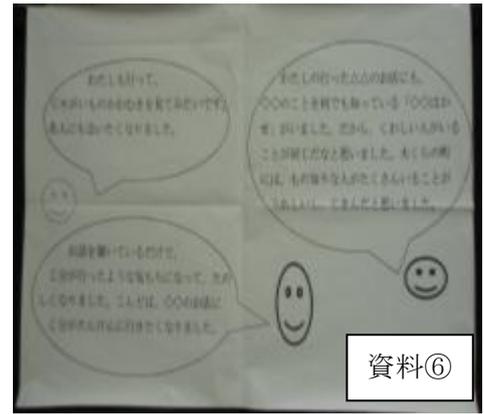
- ・ わたしは、どんな並べ方をしているのか質問しました。すると、「よく売れる物や季節のできる野菜や果物を、取りやすくまた見やすいところにおいています。」と教えてくれました。片岡さんは、お客さんが困らないようにと考えているから、お客さん思いだなと思いました。



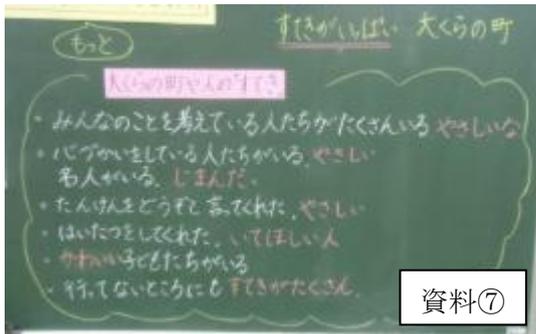
(左図は、ポスター形式の発表資料)

2回目の『すてき』発表会では、よい伝え方をした子どもの内容を紹介します。また例として、このような内容だと相手に自分の思いが伝わりやすいと示した。(資料⑥)

同じ形式で3回の発表会を行った。3回目が終わった後に「どんな『すてき』が見つかったのか全員で振り返りをした。



資料⑥



資料⑦

【子どもの発言内容】

友達の発表を聞いて、優しい人がたくさんいることが分かりました。

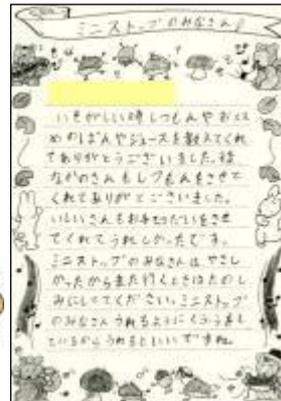
- ・ 買い物に来ることができない人のために、わざわざ物を配達している。大蔵のまちにいてほしい人だなと思いました。
- ・ 私がまだ行っていないところにも、「すてき」がたくさんあることが分かりました。

見たことやしたことだけを伝えるのではなく、理由を考えて発表していることから、繰り返し発表したり質問したりしたこと、伝える内容のポイントを予め押さえたことで気付きの質が高められた。

探検後、質問などに親切に答えてくれた地域の人にお礼のお手紙を書きたいと言い、お礼の手紙を書いて持って行った。探検でお世話になった町の方から返事が届き、「少しでも魚のことを知ってくれてうれしいです。」「また遊びに来てください。」などと認め励ましの言葉をもらった。下記のように、子ども→地域の方との伝え合う活動を行うことで、子どもたちは、「〇〇さんからの返事はまだですか。」と地域の方からの返事を楽しみに待っている姿も見られた。地域の人々とかかわることの楽しさが分かり、「また、探検へ行きたい。」と言う発言が聞かれ、関わることの楽しさを実感できた姿が見られた。(資料⑧)



資料⑧



もっと大蔵のまちの『すてき』を探そうと、3回目の探検へ行き『すてき』発表会を開いた。発表の方法は前回2回目の方法を参考にさせた。2回目のときは、ほとんどの子どもが記録写真を使ったが、3回目の発表方法は様々であった。

〈3回目の探検後の発表方法〉

- ・ 記録写真 (吹き出しや言葉を入れて)
- ・ ペープサート
- ・ クイズ
- ・ ポスター形式
- ・ 劇 (まね・動作)

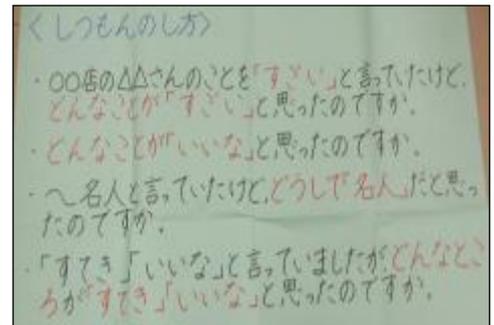
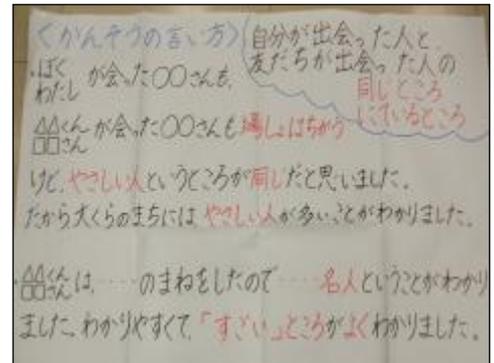
発表内容は、もっと大蔵のまちの『すてき』を知らせる」のが「めあて」であるので、1回目と2回

目の探検と比較したり，出会った人のことをどう思いこれから自分はどう関わっていきたいか等を書いたりして伝えるようにした。書き方が分からない子どももいるので，どのような書き方・発表内容であれば伝わるのか，例文を与え全員の参考になるように掲示した。同時に，聞き手側の質問や感想の言い方等も例文を示し掲示した。(資料⑨)

【書き方のれい】

- ・ 2回目に行った〇〇の△△さんは，・・・だけど，3回目に行った◇◇の☆☆さんも・・・でした。だから，大くらのまちには，・・・な人がいっぱいいることがわかりました。
- ・ わたし(ぼく)が行ったのは，2回目は〇〇で，3回目は◇◇でした。それぞれのいいところは・・・です。気づいたことは，たんけんをした場しょはちがうけれど，・・・なところは同じ(にている)など思いました。だから，大くらのまちは，・・・なところだと気づきました。
- ・ わたしは，大くらのまちは，すてきがいっぱいで，今までよりも，もっとすきになりました。
- ・ ぼく(わたし)は，〇〇の△△さんのすてきをたくさん見てあこがれました。だから，大きくなったら，△△さんのようになりたいです。
- ・ 1回目と2回目のたんけんにくらべて，3回目のたんけんで，わたし(ぼく)はすすんであいさつをしたり，しつもんをしたりすることができました。すすんでかかわると・・・だなど思いました。(気づきました。)

資料⑨



【発表内容の一部】

〇・・・わたしは，お手伝いをさせてもらいました。お店のお手伝いができてとてもうれしかったです。柳田さんはやさしいので大好きになりました。これからも，もっと柳田商店へ行って買い物をしたいです。

→

【質問内容の一部】

- ① どうして「やさしい」と思ったのですか。
- ② どうして「買い物へ行きたい」と思ったのですか。

↓



(左写真は発表の様子)

【質問に対する答え】

- ① 柳田商店には，絵が飾っています。その絵は，柳田さんが描いた絵で，お客さんが来たときに明るい気持ちになるようにと思って飾ったそうです。お客さんのことを思っているから「やさしい」と思いました。
- ② 家が近くだし，子どもが好きなお菓子も売っているので，また行きたくなりました。

3回目の発表会は，違う場所へ探検に行った3人構成とした。一人5分程度の時間で発表とした。発表内容からも，2回目の内容よりも，「すてき」と思った理由や根拠などが入れられていた。聞き手も，なぜ「やさしい」と思ったのか，聞き逃さずに質問ができていた。

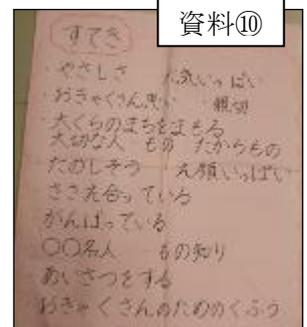
〔手立て3〕

1回目の探検は全員で、2回目と3回目は各グループに分かれての探検であった。繰り返しの探検を通して、今までは主に「生き物（虫）や自然」に目が向いていたが、意図的に「人」へ目を向けるように仕組んでいったので、「人」と関わることの楽しさを実感したり発見できたりしてきた。また、少人数のグループに分かれて2回探検を行ったことで、地域の方の優しさを肌で触れることができた。そして探検で発見したことなどを、発表会で友達に「伝えたい。」という意欲にさせることができた。また繰り返し探検は、「次は〇〇に行って、こんなことをしてみたい。」と自分のめあてをもって探検することができた。

「大蔵のまちの『すてき』を知らせる発表会」での「お話タイム」や振り返りカードに書かれた気付きを全体へ広げたことで、子どもの意識を「大蔵のまちや人」へと向けさせることができた。

地域の人と双方向のやりとりをして思いを伝え合う中で、人と関わる楽しさが分かり、自分の思いや願いを進んで交流する力が育まれていったと考える。また、全体で振り返る活動では、「まちのよさ」や「まちの人とのかかわる楽しさ」などを取り上げ、全体場で認め称賛することで、気付きを価値づけることができた。これまでに、意図的・計画的に地域の人とのふれあいを取り入れてきたので、子ども達から自然に、「お礼の手紙を書きたい・お礼の気持ちを伝えたい。」という思いを出させることができたのではないかと考える。

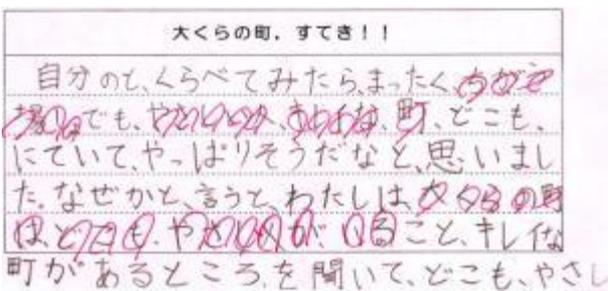
発表会の前に教師と子ども一人一人との対話を通して気付きや感動を引き出し、共感し、気付きを価値づけていった。この見取りと支援によって、子ども達は表現したいことを意識し、よりよく伝えられる方法を選択して工夫しながらまとめていった。自分なりの言葉と表現で、自信を持って伝えることができた。自分が伝えたい『すてき』は何なのかをはっきりとさせるために、今までに出された『すてき』はどのような「こと」を指していたのか、振り返りができるように掲示しておいたので、『すてき』の共通理解ができた。（資料⑩）



2回目・3回目の探検それぞれの授業の終末では、必ず「大蔵のまちや人の『すてき』」を伝え合う場を設けた。「大蔵のまちや人の『すてき』」を話し合う場面では、一つの場所の『すてき』を出させた後、意図的に他の場所の『すてき』を出させ、両者を比較して共通する『すてき』を考えさせるようにした。そうすることで、場所は違っても物を作るのが上手だったりお客さん思いの人がいたりすること、優しい先生や元気な子どもたちがいることなど、共通した『すてき』があることを子ども達に気付かせることができた。

各グループごとにお互いの発表を聞いたことで、知らなかった場所や人の『すてき』が分かりまだ行ったことのない場所や人への興味・関心をもった子どもがいた。「〇〇さんと△△さんの発表を聞いて、□□に行きたくなりました。」等、自分が住む大蔵のまちを再認識する気付きが見られた。さらに「探検へ行く前よりも、あいさつや質問がいっぱいできるようになったので、これからもあいさつを続けていきたいです。」という自己の成長への気付きも見られた。

下の振り返りカードは、「今までの探検を振り返ったり、友達の発表を聞いたりして、「大蔵のまちって『すてき』だな。」と思ったことを書こう。」と、各グループの発表後に書かせたワークシートである。（2名分）カードからも、繰り返し探検をしたり、友達の発表を聞いたりしたことで、大蔵のまちのよさに気付くことができたことが分かる。気付きの観点では十分満足できる学習状況と言える。



グループでの3回目の探検の後、お礼のお手紙を書いたり、自分たちが考えた方法でお礼の気持ちを伝えたりする。(3学期実施予定)

(3) 成果と課題

〔成果〕

グループに分かれて2回探検を行うことで、地域の方の優しさを肌で触れることができた。それが、探検で発見したことなどを発表会で友達に「伝えたい。」という意欲へと導くことができた。また、繰り返し探検を行うことで、「次は〇〇に行つて、こんなことをしてみたい。」と自分のめあてをもって探検することができた。

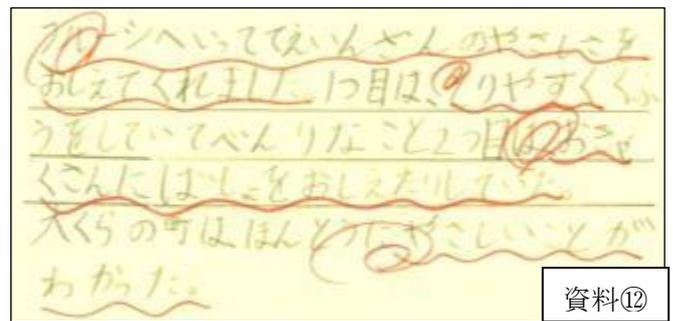
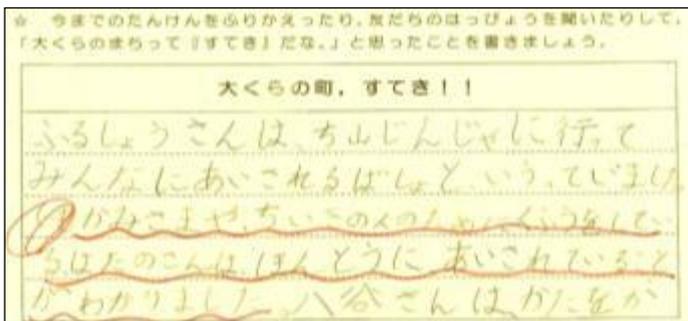
今までは主に「生き物(虫)や自然」に目が向いていた子ども達の意識を、「大蔵のまちや人」へと向けさせるために、探検へ行った際は「人」との出会いを仕組み、会話をしたことで、川の生き物だけでなく「人」とのかかわりにも目を向けさせることができた。また、「お話タイム」や振り返りカードに書かれた気づきを全体へ広げることで、子どもの意識を「大蔵のまちや人」へと向けさせることができた。

地域の人と双方向のやりとりをし思いを伝え合う中で、「人」と関わる楽しさが分かり、自分の思いや願いを進んで交流する力が育まれていったと考える。また全体で振り返る活動では、まちのよさやまちの人と関わる楽しさなどを取り上げ、全体の場で認め称賛することで、気づきを価値づけることができた。

発表会の前に教師と子ども一人一人との対話を通して気づきや感動を引き出し、共感し、気づきを価値づけていった。この見取りと支援によって、児童は表現したいことを意識し、よりよく伝えられる方法を選択して工夫しながらまとめていった。自分なりの言葉と表現で、自信をもって伝えることができたのではないと思われる。(資料⑪)

地域の人とのかかわりを繰り返し行ったことで、地域への親しみや愛着をもち、進んで人と関わるできるようになった。また、伝え合い交流することで、新たな発見をしたり、自分の見方・考え方を広げていくことができるようになったりしたのではと思われる。資料⑫から読み取れる。

資料⑪



資料⑫

〔課題〕

単元全体の指導計画の見直しが必要であると思われる。2学期の生活科の学習が、ほとんどまち探検で終わってしまった。今年度は、内容項目が指導要領に記されているので、国語科や図画工作科、道徳等他教科との関連を図って計画して実施した。しかしながら大幅に時数をオーバーしてしまった。より一層指導計画を綿密に組むこと、他教科との関連を図ること、そして何より指導計画や内容そのものを大幅に見直さなければならないと痛感した。今年度は大蔵川の探検は2学期の計画には入れなかった。単元の指導計画に入れるならば、1学期から継続的に取り組み、内容項目(5)と関連させることが望ましいと感じた。まち探検をしたことで、年間を通した指導計画を立てていくことが大切であることを改め

て感じた。

児童の考えを引き出し、気付きを高めるワークシート、伝え合う活動の改善をしていくことも必要である。生活科の学習は、「伝え合う活動」を充実させなければならない。今回、グループでの探検後の発表会は少人数でグループを組み、ポスターセッション形式で発表を行った。2回目の探検後も、3回目の探検後も同じ形態で行ったため、やや子ども達の意識にマンネリ化が感じられた。様々な形態ですること、より伝える活動の効果が表れ、子どもの意欲の持続や高まりにつながるのではないかと感じた。